



中央労働金庫 の巻

【お話を伺った方々】 ■総合企画部 CSR 企画 高瀬美由紀さん 小川達也さん
 【聞き手】認定NPO法人ぱれっと事務局長 南山達郎【記事作成】工房ぱれっと 玉井七恵

企業訪問第6回は「中央労働金庫」様(以下、中央ろうきん)です。販売のきっかけから、働く人のための金融機関だからこそできる社会貢献、社会の動きに合わせたCSR(※)のかたちをお聞きました。

●ぱれっととのつながり

《南山》そもそものつながりは?

《高瀬》はじめは、ぱれっと創始者の谷口さんに「中央ろうきん助成プログラム」の選考委員長を務めていただきました。その中で谷口さんの考えを勉強させていただいていたところから、販売に来ていただくようになって。それが2009年です。

《南山》(所在地の)御茶ノ水エリアは皆さんランチを食べる場所に迷っていて…

《高瀬》最初はお菓子ではなくレストランぱれっとのカレー弁当の販売でしたね。当時はいつも完売でした。

《南山》現在はお菓子と雑貨の販売のみですが、毎回きれいに告知ポスターを貼っていただいています。商品の事等、何かご要望はありますか。

《小川》女性の利用客が多いそうですが、ここは男性職員の方が多いので、クッキー以外のものもあるといいかも知れません。

《高瀬》男性はチョコレートが好きな方が多いですね。職場ではチョコレートのお土産はすぐに無くなりますよ。

《玉井》なるほど!チョコレートですか。

《小川》最初のきっかけとして試食や、手に取りやすい値段の小袋もあるといいかも知れないですね。雑貨もそうですが、新作ができたときに商品写真やコメ

ントをもらえれば、販売会前に職員に一斉メールで宣伝できます。

《高瀬》あとは、製造風景などを紹介するのに掲示板も使ってもらえれば。

《南山》ありがたいご提案です。

●中央ろうきんならではの社会貢献

《南山》伊豆大島や東北などで被災地支援も力を入れておられますね。本業での経済的な支援とは別の取組もされているとお聞きました。

《高瀬》はい。阪神大震災以降、ろうきんの会員である労働組合や生協では災害時支援に力を入れていて、私達も単体ではなく、労働セクターや他の組織と連携してセーフティネットを作っているんですよ。ボランティアの運営側として1週間現場に行ったりもします。

《南山》フットワークが軽いですね。どうしてそんなことができるんでしょう?

《高瀬》「中央ろうきん社会貢献基金」があるのも大きいですね。私達は行政ではなく民間組織なので、現場の情報を取りに行き、困っている所に直接、迅速に支援を届けられるという利点があります。普段から市民セクターとは顔の見えるつながりがあるので、災害時はかなり強みですね。

《南山》日常のネットワークが大事ということですね。

●障がいのある人と共に働く

《高瀬》現在、本部の一部署に一人は障がい者雇用をしていて、以前は身体障がいの人が多かったのですが、今は精神障がいの人も増えています。また、精神障がいの人への雇用に特化した「ワークサポート部門」が2009年度に厚労省のモデル事業として始まりました。約200カ所の営業店・部署間で、事務用品のクリアファイルやクリップ等の余剰分を回収して必要な事業所に回す「リユース」の事業等を担当しています。また各部署が仕事の切り出しをして、資料の準備や封入、データ入力等の依頼をしています。部屋に簡易的に横になれるスペースもあり、就業環境にも配慮しています。

《南山》業務の効率化はもちろん、各部署に出入りして同じ空間で仕事をすると、障がいのある人への理解が進む。同じ職員という意識が芽生えますね。

《高瀬》ワークサポート部門で経験を積んだ人が各部署に配属されることもあります。その後も、つまづきがあればワークサポート部門の方で面談をしたり、バックアップ体制があるんです。

《南山》なるほど。

《高瀬》特例子会社を作れば法定雇用率の達成は比較的容易かも知れないけれど、多様性の理解という意味では、本当にそれでいいのかな？という話を部内でよくするんです。

《南山》子会社と親会社だと社員同士の人材交流はなかなか起こりにくいです

からね。同じ社内の部署間なら異動や交流がありますね。

《高瀬》はい。でもそういった取組のノウハウがないので苦労はしています。

●CSR部門で働くということ

《高瀬》CSR部門は外の社会を見通せる、本当の意味での多様性に触れる機会が多いと思います。これまで歴代のCSR職員が、時代や社会の動きを敏感に察知し、その中で中央ろうきんに必要なことを、随時取り入れてきたのだと思います。

《南山》となると、CSR部門で働くにあたって向き不向きはあると思いますか？

《高瀬》組織なので、「人によらない」方が良いでしょうけれど、ある程度、時代の背景に合った人を起用していくことは大事なのではないでしょうか。

《小川》どの部署にも向き不向きはあると思いますが、中央ろうきんは非営利協同組織ですから、根底にある考え方が違うという意味で、他の一般企業に比べてCSR部門向きの人は多いと思います。

《高瀬》ろうきんそのものが助け合いの精神で始まっているのでCSRが必要なことは社内に浸透していると思います。自分達ありきではなく、社会起点で何ができるのか考える事が重要ですね。

《南山》企業も行政もNPOも、社会を良くするためという目的は同じなのかも知れませんが、今日はとてもいいお話が聞けました。ありがとうございました。

【取材を終えて】中央労働金庫様では、独自のネットワーク、行動力、社会を見通す目で時代に合わせ柔軟にCSR活動をされてきたことを知りました。そこで働く「人」の熱い思いにも触れることができ、感激すると同時に視野が広がった思いがしました。(工房ぱれっと 玉井七恵)